

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R4.2.28
豊岡市のホームページにもアップしています

No.1 1

第2回小中一貫教育推進協議会

今年2回目の協議会では、「コロナ禍でも確かな成果をあげた」と、ふるさと教育、英語教育、コミュニケーション教育、学習指導と生活指導の各WGから報告されました。本協議会の座長でもある関西学院大学教授 佐藤真先生からは「小中一貫教育で育む学力の3つの柱と非認知能力の形成」と題して講義をしていただきました。

- ◆認知能力と非認知能力をバランスよく育成しましょう。
そのために、子どもたちが主体性や協働性を発揮できるよう、「教科横断的な学び」「探究的な学習」を経験させましょう。
- ◆「やらされる学習」から「自ら行う学習」へ授業を転換しましょう。そのために主体性や協働性、汎用スキルなどをどう発揮したか見取る時間と場をつくりましょう。教師が一人一人に居場所と出番を創り、認め励ますよう努めましょう。



↑ オンラインでの推進協議会

来年度は小中一貫教育がスタートして6年目です。ふるさと教育、英語教育、コミュニケーション教育、学習指導と生活指導の各取組を、互いに関連付けたり、『非認知能力の向上』というフィルターで見たりしながら、いっそうより良いものに創り上げていきましょう。

第3回豊岡市初任者研修会

2月14日、オンラインで初任者研修会を行いました。「この1年間を教育長と語り合おう」というテーマで、21人の初任者が1人1人スピーチし、嶋教育長が意味づけ、励ましの言葉を贈りました。「気になる子」を話した初任者への、教育長のコメントの一部です。

◆「クラスのAさんは友達の活躍を見てうらやましがる。その背景に『よくなりたい』という気持ちを持っている。」と、この子の中に力を見つげられたその視点が素晴らしい。	◆いつも大人しくアクションを起こさないBさんについて「黙っていて、大人しい子を見逃さない」視点が良い。「分からない」「ちょっと助けて」と言えたことが褒められるようなクラスにしてほしい。
◆学力の低いCさんを「考えが出るまで時間がかかる子」「学ぶのに時間がかかる子」という捉え方が素晴らしい。「時間をかけて環境を整えてやるとこの子はできる」という考えだ。	◆「Dさんの誤った行動が全て本人の責に帰すものではない」というスタンスが良い。子どもを丸ごと受け止め、「それでも頑張ろうね」という指導者の思いがうかがえる。

初任者の先生方が、このような子どもの見方、捉え方ができるようになっているのは、各校長先生のご指導、同僚の先生方の影響が大きく、『子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育』が、学校に広く浸透していることを表しています。皆さんのさらなる成長を期待しています。